

平成 23 年度 環境改善に関する調査研究に係る外部評価について

1 局地汚染地域における各種自動車排出ガス抑制対策効果評価手法の活用に関する調査研究

調査研究代表者氏名：株式会社数理計画

- ・23年度は、交差点周辺における自動車発生源作成手法の検討、DiMCFDの運用手法に関する検討、地方公共団体との協議や従来の調査研究をベースに「評価ツール活用ガイドライン」(案)を策定しているが、弱風時の課題などを含め、更なる検証が必要なこともあり、24年度は汎用性や有効性を高めることに配慮し、環境改善への指針となることに期待する。
- ・評価ツール DiMCFD の実用性・有効性を向上させる上では、今回進めている新しい地点での適用による検証が重要である。一般化のためには必要入力データのさらなる検討(対象地域の決定、データの精度と収集コストのバランスなどからみた適正なデータの量と質など)が必要である。交通モデルと拡散モデルの整合性(精度・時空間単位の適正さ)と共に、想定される対策からみた分析領域、精度のレベルなどにもっと注力してほしい。
- ・地方公共団体が評価手法を利用するために支出可能な費用の範囲を十分考慮し、評価手法を開発する事が重要と考えます。
- ・本モデルをツールとして地方公共団体等で使いこなせるようなものとする配慮が必要である。その際、改善対策として可能性のあるものを具体的に検討できるようなツールとして頂きたい。
- ・研究計画と進行管理は妥当であると考ええる。対象地域における自動車からの NOx 排出量総量算定のプロセスの中で平均速度が用いられているが、走行速度の分布が必要であると考ええる。24年度のモデル調査実施ではこの点に関する検討も行って欲しい。

2 大気浄化植樹事業の効果の把握及び効果的推進のための調査研究

調査研究代表者氏名：株式会社プレック研究所

- ・23年度は、文献調査や専門家へのヒヤリングが中心となっており、その結果を24年度以降に如何に活用されるのかが一つの課題である。特に、ガス状汚染物質や、粒子状物質に関して定量的評価法の見直しに関し、その課題と対応については述べられているが、光合成に伴う CO₂ の固定化とは異なり、定量的評価の手法については、化学的・物理学的に困難な課題が存在するので、慎重な検討が必要。
- ・定量的評価による環境浄化の効果の把握に関しては、植樹事業を実施する事業者にとって樹種選定等とも関連して一つの重要な課題ではあるが、一方、植樹事業を普及させるためには緑化に伴う相対的な環境改善効果も重要であり、その効果把握の手法についても整理してもらいたい。
- ・限られた予算と時間の中での研究で、対象も多岐にわたるため、研究計画の組み立てが難しいが、植物と汚染物質との関係については、PM_{2.5}に加えて新たに放射性物質との関係が注目されており、この際関連する知見の整理が社会的には重要と考える。
- ・検証については、屋内実験の可能性なども検討してほしい。
- ・粒子状物質の低減効果検討のための現地観測地点として、緑のない地点を加えることを検討してみてもと考える。
- ・定量的な効果を特定することは、大変困難な研究であることは理解できる。汚染物を含む大気を遮

蔽する効果も大きいと推察され、その効果を確認して頂きたい。

- ・研究計画は妥当であり、一年目で十分なレビューが行われたと評価できる。平成 24 年度以降は効果の評価尺度の範囲をできるだけ広げ、大気汚染物質の補足効果のみならず、その他の効果も十分に検討していただきたい。

3 一般ユーザーに対するエコドライブの普及による大気汚染の改善手法に関する調査研究

調査研究代表者氏名：株式会社アスア

- ・個々のドライバーがエコドライブに積極的に取り組むことは重要であるが、今回の調査研究の成果として、企業が従業員のエコドライブに積極的に取り組んで、燃費の向上さらに交通事故の減少にも寄与していることが証明されたことは、評価される。また、インターネットを活用した会員の参加についても自治体の積極的な協力が得られてからであろうが、インセンティブ付与の条件などによっても更なる効果が期待できるだろう。
- ・今後、機構としても単なるエコドライブの普及だけでなく、企業が集団として、あるいは地方公共団体の環境施策として普及させるためのマニュアル等を設定し、広く普及させることに取り組むことに期待したい。
- ・一般ユーザー向けの当初の目的からは、インターネット会員向けにチャレンジし、参加継続意欲向上のための工夫をしたものの、難しさも改めてわかったように思います。企業団体モデルでは企業のインセンティブをうまく利用した取り組みにより、安全など副次的効果の重要性が確認でき、今後の展開に向けた好事例として社会的にもアピールできる成果として評価します。
- ・貴重な調査結果と考えます。したがって、少なくともデータの処理については細心の注意を払うことが必要と考えます。また可能であれば、社会的にその意義を広く知ってもらうために、調査結果データそのもの（いわゆるマイクロデータ）を公開し、外部の方にも利用可能にし、結果を検証可能にする事が望ましいと考えます。
- ・社会実験的な試みとして、他に例のない調査研究として評価できる。特に、企業に対する実施モデルを独自に開発し、教育システムも含めて汎用性の高いものを完成させている。今後、このようなモデルを広範に普及していくことが強く望まれる。
- ・貴重な試みであったと評価できる。今後の普及促進を期待したい。